

総合リハ将来ビジョン

～ユニバーサル社会への先導的実践～

平成25年11月

社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団
総合リハビリテーションセンター

はじめに

総合リハビリテーションセンターが設置されてから、40年余が過ぎようとしています。

このような中、人口減少、少子高齢化、ニーズの多様化、各種制度改革など、社会環境は近年大きく変化しています。また、総合リハ内部にあっても、目的意識や使命感の希薄化、縦割り化、コミュニケーションの低下、慢性的な人材不足といった課題が浮き彫りになってきています。

こうした状況を踏まえ、来年度、設置45年の大きな節目を迎えるに当たり、現状等を検証し、総合リハ全体として将来目指すべき活動の方向性を明らかにすることとしました。

23年度、関係職員による勉強会で検討を開始し、24年度には外部関係者を含む検討委員会、プロジェクトチームにおいて検討を深め、さらに25年度には有識者からご助言を得るなど、足掛け3年に及ぶ検討を経て、今般、「将来ビジョン」としてとりまとめました。

ビジョンには、将来の活動目標や達成のための中長期的戦略等をコンパクトにまとめています。短い文章の中にも、現状を打破し進化させようとする、熱意ある多くの職員の思いが反映されているはずです。

もとより、ビジョンの実現には様々な困難が予想されます。それ乗り越えるには何よりも夢を抱いた志の高い職員の存在が不可欠です。

全職員の奮起を期待しています。

最後になりましたが、終始、厳しくも温かいご指導とご助言をいただいた、兵庫県社会福祉事業団の澤村誠志顧問に厚くお礼申し上げます。

平成25年11月

総合リハビリテーションセンター所長

目 次

1	策定趣旨	1
2	目標年次	1
3	これからの社会の姿	1
4	総合リハの課題	2
5	目指すべき将来像（活動目標）	3
6	将来像（活動目標）を実現するための戦略	4
7	重点プロジェクト	5
8	ビジョンの推進	8
【検討体制】		
1	総合リハあり方検討委員会委員	9
2	同 プロジェクトメンバー	10
3	ご意見をいただいた有識者	10
(参考) 総合リハの将来イメージ（2040年の姿）		11

1 策定趣旨

総合リハビリテーションセンターが設置されて40年余が経過する中、人口減少、急速な少子高齢化、リハビリニーズの高度化・多様化、各種制度改革など、取り巻く社会環境は大きく変化している。

一方、総合リハ内部においても、コミュニケーションや連携協力意識の低下、慢性的な人材不足といった課題が浮き彫りになってきた。

そこで、平成26年度に設置45周年という大きな節目を迎えるにあたり、現状等を検証し、将来目指すべき活動の方向性を「将来ビジョン」としてとりまとめ、今後の活動指針とする。

2 目標年次

将来ビジョン（以下、「ビジョン」）の策定に当たり、将来を見通しておくべき時期を「2040年（平成52年）」頃とし、ビジョンの実現に向けて取り組むべきおおよその時期（目標年次）を「2030年（平成42年）」頃とした。

3 これからの社会の姿

ビジョンの策定に当たり、重視した時代潮流は次のとおり。

- ① 人口減少・少子高齢化
⇒労働力不足、独居高齢者の増加、医療・介護・福祉ニーズの増大
- ② 共生社会の浸透
⇒ユニバーサル社会（ソーシャルインクルージョン）の考え方の一般化
- ③ 防災・環境・エネルギーへの意識の高まり
⇒安全安心のまちづくり、環境優先社会の重視
- ④ 科学技術・情報通信技術の飛躍的進歩
⇒ハイテク技術の利活用、インターネット社会

- ⑤ グローバル化
⇒競争激化、商品やサービスの選別化、国際交流の活発化
- ⑥ 制度改革
⇒社会保障制度改革（持続型への各種見直し）、行財政改革、
規制緩和

4 総合リハの課題

現在、総合リハビリテーションセンター（以下、「総合リハ」）には次のような様々な課題があり、これらを踏まえ、今後の活動目標や戦略に反映した。

- ① 多分野複数施設としての相乗効果が十分発揮できていない
組織の縦割り化、コミュニケーションや連携協力意識の低下、風通しの悪さ、古い体質等。
- ② 量・質両面での人材不足
専門人材の慢性的不足、モラル（士気）の低下、キャリア開発の体制が不十分。
- ③ 危機管理対策・安全安心対策が不十分
大規模災害への備え、速度制限、歩車共存、施設のユニバーサルデザイン化、癒し・アメニティ空間の必要性。
- ④ 敷地が手狭
駐車スペースの不足、新規事業の実施や施設の建て替えが困難。
- ⑤ 次期活動目標が不明確
全県拠点施設としての将来の活動目標が不明確。

5 目指すべき将来像（活動目標）

将来にわたり総合リハが担うべき基本的な役割を、

第一にユニバーサル社会の実現に向けた先導役

第二に障害者等の全人間的な社会復帰の総合的支援

第三にリハビリテーションの全県支援拠点としての独自機能の発揮
とし、今後目指すべき将来像（活動目標）を次のとおりとする。

将来像（活動目標）

- 1 年齢や障害種別の壁を超えた支援と
セーフティネット機能の発揮
- 2 高度・専門的リハビリテーションサービスの提供と
地域支援機能の強化
- 3 リハビリテーションの基盤を支える研究開発や専門人材
の育成
- 4 内外への情報発信と貢献

6 将来像（活動目標）を実現するための戦略

今後、取り組むべき事業の全体像は次のとおり。

		【 H26 ～ 30 】	【 H31 ～ 】
総合	地域貢献	■アクティビティセンター (訓練、スポーツ、文化活動等)	■総合型スポーツ・文化交流施設 (屋外競技場、プール、アスリート育成)
	人材の確保・育成	■人材開発システム (人材派遣、研究会、資格取得支援) ■人材の安定確保・処遇向上	
	危機管理	■防災資機材等備蓄、耐震化 ■事業継続計画 (BCP)	■総合防災センター (司令塔・備蓄)
	施設・環境対策	■コミュニティゾーン形成 (速度規制、歩道、サイン) ■施設の大規模改修 ■省エネ化 (太陽光発電、LED)	■安全安心の生活空間づくり (ユニバーサルデザイン、アメニティ) ■施設の建て替え (新中央病院など) ■ゼロエミッション (廃棄物ゼロ) の推進
分野別	医学リハ	■ロボットリハビリテーションセンターの本格展開 (全国的研究・情報発信拠点)	
	社会リハ		
	職業リハ	■ソーシャルファーム (触法、DV、ニート等含む、 レストラン、コンビニ経営)	■職業リハビリテーションセンター ■重度障害者の職業リハの全県拠点 (相談～訓練～職場定着支援までの一貫したサービス)
	地域支援	■地域包括リハ・ケアセンター (24時間365日、支援が必要な すべての人を対象) ■全県リハ支援センターの機能強化 (テクニカルエイドサービス等)	■医療・福祉と連携した住まい (多様な住まいとケアサービスをモデル整備)
	研究・研修	■ロボットリハビリテーションセンターの本格展開 (再掲) ■ユニバーサルデザイン研究 (まちづくり、住まい、就労環境改善) ■リハビリ・介護人材アカデミー (リハビリ・介護人材の研修拠点) ■テクニカルエイドサービス (福祉用具の開発、評価、適合、訓練、改良)	

7 重点プロジェクト

今後、取り組むべき事業のうち、特に重視する事業（重点プロジェクト）は次のとおり。

（１）概ね５年以内に取り組む事業 ≪Ｈ２６～３０年度≫

アクティビティセンター

障害者等が総合リハの多様な施設を活用し、自主的に生活訓練、就労訓練、スポーツ、健康づくり、文化活動等の社会参加活動に取り組むことを支援。

- ① 総合案内（受付）
- ② アクティビティ・プログラムの開発と実践支援
- ③ 総合型スポーツ・文化交流施設（屋外競技場、プール、文化ホール）
- ④ パラリンピック・アスリートの育成強化

人材開発システム（キャリア・ディベロプメント・プログラム）

〔 内外をリードする次代の幹部職員の養成 〕

- ① 内外研究機関・大学・企業への人材の相互派遣
- ② 内外の学会や研究会の誘致開催
- ③ 資格取得支援、顕彰制度
- ④ 外部への講師派遣
- ⑤ 専門研修、職種間交流研修
- ⑥ 専門職育成のための人事異動制度（福祉、事務職）
- ⑦ キャリアパス自己申告制度
- ⑧ 職員コミュニティカフェ（職員、職種間交流の場）

ロボットリハビリテーションセンター

〔 最先端リハビリテーションの全国的研究・情報発信拠点 〕

- ① ロボットリハビリの実践（筋電義手、コンピューター制御義足、HAL、エビデンス手法の確立）

- ② 研究開発（大学・企業と連携した機器開発、BMI）
- ③ 人材育成・ネットワーク（研究会等）
- ④ 情報発信・交流（アジア、ヨーロッパ等）
- ⑤ テクニカルエイドサービス拠点（福祉・介護機器の開発・評価・適合・訓練・改良）

高次脳機能障害支援センター

- 〔 全県における高次脳機能障害の支援拠点（相談～診断～訓練～在宅支援） 〕
- ① 総合相談
- ② 専門外来の設置（診断・訓練・リハビリ・コーディネート。医師・看護師・セラピスト・相談支援コーディネーター等の専任配置）
- ③ 全県支援ネットワークの確立
- ④ 人材育成（医師、セラピスト、看護師、福祉施設職員等への研修）
- ⑤ 調査研究（高次脳機能障害リハビリプログラムの開発）

地域包括リハ・ケアセンター

- 〔 障害者等が地域で安心して暮らし続けることができるシステムの構築に向けた、包括的・継続的サービスの提供とコーディネート 〕
- ① 総合相談（三障害等）
- ② 施設機能を活かしたサービス提供（24時間、365日）
- ③ 全県リハビリテーション支援センターの機能強化（テクニカルエイドサービスの実施等）
- ④ アクティビティセンター総合受付（案内）

ソーシャルファーム

- 〔 障害者を含む就労困難者の雇用の場 〕
- ① 触法障害者、DV被害者、ニート、ホームレス等
- ② レストラン、コンビニ、リサイクル、野菜の生産販売等を企業的手法で経営（一般雇用、A型事業等。最低賃金確保）

(2) 概ね15年以内に取り組む事業 《H31～40年度》

安全安心の生活空間づくり

〔 施設のユニバーサルデザイン化、癒しとアメニティ空間の創出 〕

- ① コミュニティゾーンの形成（車両速度制限、歩車共存）
- ② わかりやすい施設案内（案内表示の統一化、多言語化、音声・光による誘導、駐車場の空き情報）
- ③ 敷地の緑地化・公園化
- ④ 職員コミュニティカフェ

職業リハビリテーションセンター

〔 重度障害者の職業リハの全県拠点 〕

- ① 一貫した職リハサービスの提供（相談から訓練・職場定着支援まで）
- ② 対象者の拡大（他の施設・機関で受け入れ困難な重度障害者の受け入れ。全身性障害、難病、高次脳機能障害等）
- ③ 特別支援学校の就職希望者への評価・支援の強化
- ④ 重度障害者への就労支援（研究所と協働したテクニカルエイドサービス、就労環境の改善研究）
- ⑤ 新たな職域の拡大（就労困難者の多様な雇用の場づくり、ソーシャルファーム等）

医療・福祉と連携した住まい

〔 誰もが地域で安心して暮らせるよう支援するため、多様な住まいとケアサービス、まち機能をモデル的に整備。 〕

- ① 多様な住まいの整備（24時間見守り、ケア付き住宅、共同住宅等）
- ② 多様で切れ目のないケアサービス（地域包括ケアサービス）
- ③ 住まいを支えるまち機能（診療所、飲食店、公共交通、地域交流、災害対応等）

8 ビジョンの推進

ビジョンを円滑に推進するため、特に次の点を重視する。

(1) 志の高い人材の配置

総合リハを自分自身の成長・自己実現の場と考え、高い目標を持って困難課題に挑戦・完遂する、気概に満ちた志の高い職員を配置する。

(2) 必要性の高い事業から実施

事業実施に当たっては、社会的にみて必要性・緊急性の高いものから実施する。

また、必要に応じ基本構想や実施計画等を策定するなど計画的に実施する。

(3) スクラップ&ビルド

経営資源（財源・人材等）は限られているため、特に新規事業の実施に当たっては、スクラップアンドビルドを徹底する。

(4) 財源・人材確保

着手した事業が将来にわたり安定的、継続的に推進できるよう、財源や人材については確実な見通しを立て実施する。

(5) 新用地の取得

新たな用地の取得が必要な事業については、社会情勢等の動向を見極めつつ、中長期的に対応する。

【検討体制】

1 総合リハビリテーションセンターあり方検討委員会委員（平成25年度）

（順不同）（ ）は平成24年度

委員等	氏 名	職 名
委員長	吉 田 裕 明	専務理事 兼総合リハビリテーションセンター所長
副委員長	大西 徹 (三輪 眞己)	総合リハビリテーションセンター次長 兼中央病院管理局長
委 員	井口 哲弘	理事 兼総合リハビリテーションセンター中央病院長
	松田 正義	総合リハビリテーションセンター福祉管理部長 兼のぞみの家所長
	坊垣 勝彦	総合リハビリテーションセンター能力開発部長 兼職業能力開発施設所長・あけぼのの家所長
	謝 世業 (岩田 宏之)	総合リハビリテーションセンター自立生活訓練部長 兼自立生活訓練センター所長・おおぞらのいえ所長
	末田 統	総合リハビリテーションセンター福祉のまちづくり研究所長
	笹谷 正康	総合リハビリテーションセンター中央病院管理部長
	板倉 和彦	県社会福祉事業団事務局経営企画部長
オブザーバー	堤 裕俊	国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局 神戸視力障害センター所長
	北村 義一 (東 陽次郎)	県立身体障害者更生相談所長
	服部 厚夫	県立障害者高等技術専門学院長
アドバイザー	澤村誠志	県社会福祉事業団顧問、 県立リハビリテーション中央病院名誉院長
	柏 由紀夫 (真木 高司)	県健康福祉部社会福祉局長
	崎山 泰弘 (柏 由紀夫)	県健康福祉部障害福祉局長
	大久保博章	県産業労働部政策労働局長
事 務 局	瀧本 綾野	県社会福祉事業団事務局経営企画部次長 兼企画調整課長
	田中 哲也	総合リハビリテーションセンター福祉管理部 総務課長兼保育室長
	篠山 潤一	総合リハビリテーションセンター福祉管理部 地域支援課長兼総務課課長(調整担当)

2 総合リハビリテーションセンターあり方検討委員会プロジェクトメンバー

(順不同)

プロジェクト		リーダー	メンバー
ロボットリハビリテーションセンター		岡野 生也	田中美穂、水口信宏、赤澤康史、本田雄一郎、中村 豪、根本和彦、陳 隆明、安田孝司、溝部二十四、高濱正子
高次脳機能障害支援センター		久田 雅敏	藤坂幸広、坊垣勝彦、笹谷正康、高野 真、岡野生也、山端恭子
職業リハビリテーションセンター	全県拠点	西田 元貴	後田美由紀、岡野良樹、興津亜希子
	ソーシャルファーム	西田 元貴	今中隆洋、人見夏花
アクティビティセンター		川口 清隆	永井和英、宮原典子、西田元貴、今中隆洋、人見夏花、坂元陽子、中尾有里佳
地域包括リハ・ケアセンター		杉本 幸重	藤田博子、藤本良和、定松美里、安井一彰、高瀬 泉、柴田八衣子
医療・福祉と連携した住まい		宗野 得喜	生田修一、飯塚哲也、難波 健
総合リハ人材開発システム		横山 智也 小林 博幸	田中哲也、谷川久美子、名倉直也、山本直樹、河島康子
安全安心の生活空間づくり		楠原 勝則 岸 典子	宮村美沙江、碓井秀樹、北川博巳、大森清博、小峰さつき

3 ご意見をいただいた有識者

- | | |
|--|--------------|
| (1) 県社会福祉事業団顧問、
県立リハビリテーション中央病院名誉院長 | 澤村 誠志 |
| (2) 国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局
伊東重度障害者センター所長 | 西村 茂 |
| (3) 京都府リハビリテーションセンター長 | 武澤 信夫 |
| (4) 公立みつぎ総合病院名誉院長
公立みつぎ総合病院院長 | 山口 昇
林 拓男 |

総合リハの将来イメージ ～2040年の姿～

ユニバーサル社会の実現に向けた先導的・総合的実践拠点

- ① 重度障害者等の社会復帰を全面的に支援
(高度・専門的な医学・社会・職業リハ、テクノエイド、地域包括リハ・ケア、就労困難者の雇用の場、多様な住まい)
- ② 福祉のまちづくりやロボットリハビリテーションの研究開発と人材育成
- ③ 最先端のリハビリテーション技術の国内外への情報発信と国際貢献

